

目線の高さを意識して

三菱重工業株式会社 原子力事業本部
原子力プラント技術統括部
原子力システム技術部 機器構造技術課

渡 邊 啓 太

私は2009年に工学研究科環境・エネルギー工学専攻を修了し、三菱重工業株式会社に入社しました。在学中は原子力工学を中心に学び、現在も原子力関係の仕事に就いています。入社後3年半が経ち周囲からフレッシュマンとは言われなくなりましたが、恩師である福田武司先生より声を掛けて頂き、本稿を執筆させて頂くこととなりました。

私の学生時代の研究テーマは、電磁波とアルカリ金属の光学的相互作用に関するもので、簡単に言うとレーザー光で金属ナトリウムを透視する実験を行っていました。前期課程1年の夏に当社のインターンシップに参加する機会を得て、ものづくりの世界に興味を抱き、現在に至ります。

私は原子炉の冷却設備を設計する部門に所属しており、機器の形状を決め、強度や機能を評価し、資料や図面を残すという仕事をしています。学生時代、機械系科目に縁のなかった私にとって、構造設計の分野は分からないことばかりで、入社当初は「本当にやっていけるだろうか」と大変な危機感を抱いたものです。しかし、日々新しい知識に触れ、さっぱり分からなかった資料や図面が少しずつ理解出来るようになり、それを応用していくことがとても新鮮に感じられ、あっという間に3年半が経ってしまいました。

入社以来、何か新しいことに取り組むことを常に意識するよう心がけています。ルーチンワークのような仕事であっても、新しいことを取り入れる余地がないか隙をうかがうようにしています。きっとそのほうがいつまでもフレッシュな気持ちでいられると思うからです。ですが新しいことに失敗はつきもの。これまで大小様々な失敗を重ねてきましたが、そうした失敗の

多くは「判断力」の問題に帰結すると感じています。

入社2年目の頃、初めて大きな解析の仕事を任せられ、私は意欲に燃えていました。解析とは実際の物理現象を計算可能なモデルに置き換える作業といえますが、その作業には多くの工学的「判断」が必要となります。ところが仕事を進めていくうちに、解析条件などに関する小さな課題が積み重なり、何からどう処理すれば良いか分からなくなってしまいました。

私のような経験の浅いエンジニアにとって、目先の問題に囚われて動けなくなることは、よくあることだと思います。正確かつタイムリーな判断をするために、経験と知識に裏打ちされた広い視野を持つ必要があります。当時の上司には、「君の仕事は『判断』をし、それをアウトプットすることだ。君は『判断』をしななければならないのだ。」と怒られたものです。しかし何より大切なのは、自分で判断できるか否かを見極める力だということに、最近ようやく気づき始めました。言い換えれば、自分の目線の高さを自覚し、視野を広げるために目線を高くするよう努力することが大切だと感じています。

今年に入って初めて海外案件に携わるようになり、目の前には自分にとって新しい領域が広がっています。慣れない英語の資料を前に途方にくれることも多々あります。まだまだ出来ることは少ないですが、当社の社是にあるように「社業を通じて社会の進歩に貢献」すべく、目線の高さを意識してエンジニアとしての視野を広げていきたいと思っています。

(原子力 平成19年卒 環境・エネルギー 21年前期)